

No	カテゴリ	質問トピック	質問	回答
1	「高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発」 「高頻度打上げに資するロケット製造プロセスの刷新」	公募要領	ステージート評価は「支援開始後2年目（公募要領準拠）を目的に行う」としていますが、支援開始後の2年間を超えてはならないのでしょうか。	ステージート評価は『支援開始後2年目を目的に行う』としていますが、具体的なステージート評価の時期については、実施者の技術開発計画を踏まえて JAXA において決定します。
2			2年後でステージートを実施する際に、ユーザ側の事業見通しに左右され持続性ある事業計画を示せない場合が想定されます。こうした場合、ユーザ側の事業を含めて勘案されるのでしょうか。	ステージート評価の視点の一つに『技術開発課題の達成目標に向けた進捗状況及び今後の見通し』があり、ユーザ側の事業（需要）がなくなるなど、クリティカルな問題と認められる場合は技術開発課題の中止・見直しを判断すること考えられます。このため、採択後の活動として、今後の見通しに影響する可能性のあるユーザ側の事業は定期的に把握いただく必要があると考えます。 なお、ステージート評価の視点については「9. 採択後の技術開発課題の推進について（4）実施に係る技術開発マネジメント ②審査会による技術開発課題に対する評価」をご確認ください。
3		ステークホルダー評価	ステークホルダー評価の提出は必須でしょうか。	必ずご提出ください。
4			ステークホルダー評価説明会の資料や質疑応答を教えてください。	ステークホルダー評価説明会での資料及び質疑応答はxxに掲載しています。ご確認ください。
5	「高頻度打上げに資するロケット部品・コンポーネント等の開発」	公募要領	公募要領では飛行実証費用は含まないと記載されている。飛行実証がないと社会実装ができないコンポーネントは、飛行実証前までしか支援はないのでしょうか。	飛行実証要否は提案要素です。本公募では飛行実証費用は認められていませんが、予算やスケジュールを把握するために様式3および様式14に必要事項の記載をお願いしています。 参考：選定基準のなかに『申請時点のTRL及び事業開始以降の各TRLにおける検証計画（飛行実証要否含む）の妥当性』が設定されています。
6			飛行実証が必須なコンポーネントについては、対象外ということでしょうか。もしくは、飛行実証費用及び計画は事業者が自ら計画・実施するということでしょうか。	対象外ではありません。飛行実証費用及び計画は提案機関自ら検討してください。